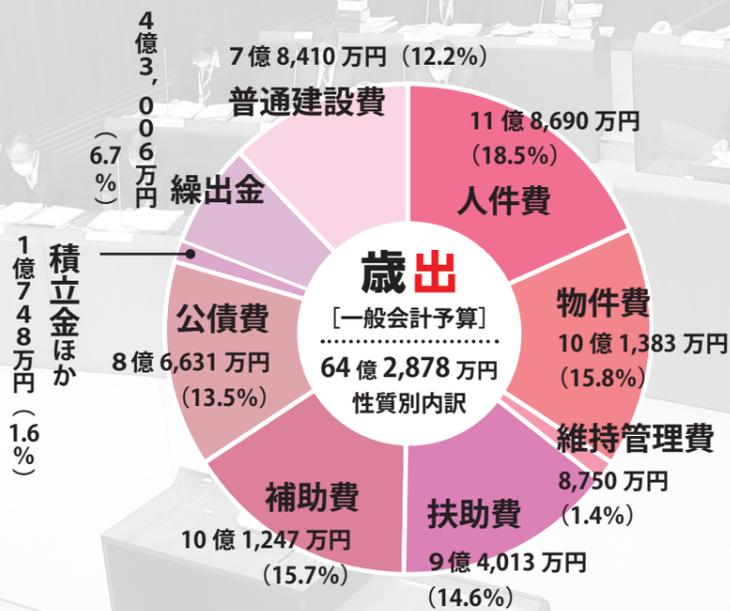


歳入 一般会計

自主財源である町税は6億146万円で歳入全体に占める割合の9.4%です。そのほか地方交付税が30億9,090万円、国庫支出金6億2,460万円、県支出金5億1,650万円となり、不足する財源は基金を取り崩して財源に充てています。地方交付税が7,125万円(2.4%)増えていますがその割合は約半数を占め安定財源の確保に予断を許さない状況が続いています。

令和3年度一般会計予算 [歳入]



一般会計 歳出

歳出は前年度に比べ1億7,542万円の増額となりました。新型コロナ対策や錦江中学校体育館の屋根改修などが主な要因です。性質別では人件費が最も多く11億8,690万円、物件費が10億1,383万円と続きます。経常経費削減や事業見直しを図りながら、行財政のさらなる効率化を進めていきます。

令和3年度一般会計予算 [歳出] (性質別)

Point 3

令和3年度の分かりやすい予算書
5月に自治会使送で全戸配布

令和3年度の各会計予算総額は96億4,863万円で、前年度に比べ3億7千万円の増額となりました。予算書を分かりやすくまとめた冊子を全戸に配布しますので、ぜひご覧ください。

▲令和3年度の「分かりやすい予算書」は5月の自治会使送便で全戸配布を予定しています

特別会計を含む令和3年度予算総額は96億4,862万円

一般会計	64億2,878万円
特別会計 (6事業)	
国民健康保険事業	15億5,624万円
後期高齢者医療事業特別会計	1億4,159万円
介護保険事業 (保険事業勘定) 特別会計	13億1,394万円
介護保険事業 (サービス事業勘定) 特別会計	1,065万円
簡易水道事業特別会計	1億1,956万円
農業集落排水事業特別会計	7,787万円
令和3年度の予算総額	96億4,863万円

[一般会計予算]

3月議会最終本会議で令和3年度当初予算が可決

64億2,878万円

新型コロナウイルス対策、錦江中学校体育館の改修工事などがおもな要因として前年度比約1億7千万円の増となった当初予算。持続可能なまちづくりに向けた貴重な予算の使い道を施政方針に沿ってお伝えします。

令和3年度の一般会計予算は前年度比約1億7千万円の増

第1回錦江町議会定例会で可決された今年度の一般会計当初予算総額は、64億2千878万円。新型コロナ対策や錦江中学校体育館の屋根改修などがおもな要因で、前年度比1億7千542万円(2.8%)の増となりました。歳入は自主財源である町税が約6億円と、予算全体に占める割合は1割にも満たない厳しい状況。それに対して、依存財源である地方交付税は約30億9千万円と、歳入のほぼ半分を占めることから、国への依存度が高くなり高いことが分かります。

しかし、国が市町村合併を進める際に提示した、元利償還金の7割を交付税に上乗せする合併特例債や、合併前の規模で地方交付税を算定する

る優遇特例措置は、合併後10年目から段階的に減らされ令和元年度でついに終了。今後は規模相応の交付となりますが、人口推計によると令和22年の錦江町総人口は3千人台まで減少すると予測され、交付税の増額は期待できないことから自主財源の確保が喫緊の課題となっています。

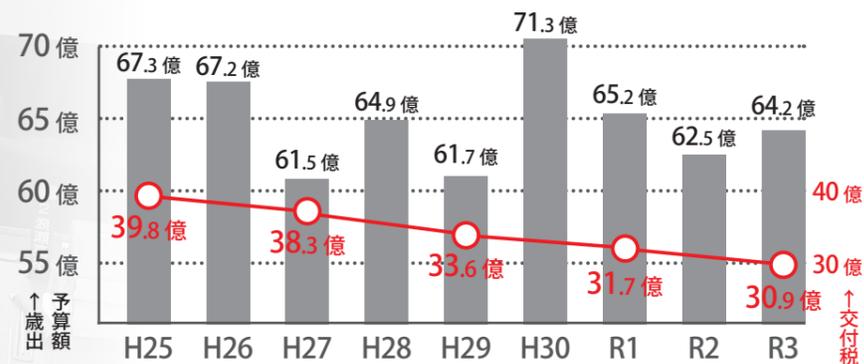
意識改革と情報共有が鍵

特例措置の廃止や人口減少の下げ止まりが見えない現状を踏まえ、歳入の大幅な増収は見込めません。特別会計への繰出金も年々増え続けるなか、健全な財政を維持するために抜本的な行財政改革や施設の集約化、人件費を抑制しつつも適正な人員配置による行政サービス維持など、危機的状況を乗り越えようとする私たち一人ひとりの意識改革と情報共有が重要な鍵を握ります。

当初予算

自主財源確保と事業の選択による財政効率化

一般会計 (歳出) 予算額と地方交付税の推移 H25 ~ R3 (9年)



Point 2

合併10年目から減り続ける交付税
地方交付税の大幅な減額

市町村合併を進める際に国が提示した、合併前の規模で地方交付税を算定する優遇特例措置も合併後10年目から段階的に減らされ、平成25年度は39億円あった交付税も令和3年度は30億円と8年で約9億円減少している。今後も減少を見込む。